

市長コメント

本日、外務省の河邊賢裕^{こうべやすひろ}北米局長が来訪し、米空母「ロナルド・レーガン」が「ジョージ・ワシントン」に交代する旨の説明がありました。

現在の厳しい安全保障環境において、日本の平和と安全、そして、地域の安定のためには米海軍のプレゼンスが引き続き維持されることは、非常に重要なことであることは理解します。

今回の交代にあたり、推進機関についての変更はないとのことですが、燃料交換や大規模修繕が行われた原子力空母が横須賀に前方展開されるのは初めてのことです。政府に対しては、原子力艦の運用における、高い水準の安全性の確保と、これまでの原子力艦の安全性に関するコミットメントの遵守について、米側に伝えるとともに、引き続き丁寧な情報提供を求めたところです。

空母ジョージ・ワシントンの入港は 2024 年後半とのことですが、私の思いとしては、新たに横須賀に赴任される、乗組員や家族の方達には、横須賀を第 2 の故郷だと思っていいただきたいと考えています。